

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770301794		
法人名	MCP株式会社		
事業所名	グループホームつどい「八山田家」		
所在地	福島県郡山市八山田西四丁目184番地		
自己評価作成日	2021年11月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク		
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地		
訪問調査日	令和3年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来、15年以上において企業理念である「心地よい空間の共有」を念頭に置き、実践することでご利用者様スタッフ共に日々を和やかに過ごすことが出来ている。コロナ禍で外出や面会など出来ない日々が続いたが、ご利用者様に更に深く寄り添うことで絆が深まり乗り越えられている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義と役割を理解し、定期的にボランティア団体と交流したり、体験学習を受け入れるなど、事業所の持っている力を地域に還元しようとしている。利用者・家族・職員が連携しケアの質を高められるよう、解りやすい理念を掲げ、地域でその人らしく暮らせるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. 大いに増えている 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿った介護サービスの提供ができよう努めている。	理念は、開設時の職員が、こうありたいとの思いから作成している。職員には、いつも見える所に掲示し、朝礼等で周知意識付けを行っている。利用者が求めていることは何かを模索し、どのような支援が今必要かを考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入することで地域との繋がりができている。今後、更に交流が出来るようにしていきたい。	小学生の町探検、中学生の職場体験の受け入れを行っている。地域の保育園児にクリスマス会で歌やお遊戯の披露をして貰い、利用者との交流を深めている。事業所の年間行事の夏祭りに近隣住民を招待して交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やホームの行事等で来所して頂き、ホーム内の見学や利用者との交流を通して認知症の方への理解をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの取り組みを報告することで、率直なご意見を頂きサービス向上に努めている。	会議のなかで、家族会の設立を希望されているが、短期間での入退去があるため、今後実現に向けた取り組みを計画している。コロナ終息後は会議を通して、避難訓練や食事体験等を再開したいと考えている。。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍以前は、介護サービス相談員を受け入れて利用者と話して気付いた点を指摘して頂いていた。介護保険課へ何かあれば報告し、都度、助言等を頂いている。	生活保護受給の利用者が、家族と疎遠なので相談している。市から、成年後見制度の利用を提案されている。コロナ禍以前は、介護サービス相談員が2カ月に一度のペースで来所していたので終息後は再開を希望している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会を通して身体拘束防止に努めている。	事業所として、身体拘束をしない基本方針を掲げている。言葉の拘束について気づいた時は、どの言葉が拘束にあたるかを一緒に考えるようにしている。一人歩きする利用者へは、転倒の危険がないかを見守りを行うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会を通して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な制度を活用できている。 制度が必要な場合は、市の担当者と相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書で説明を行い、不安点があればその場で明確に出来るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に相談や苦情窓口を提示している。また、ご意見箱の設置もしており利用者や家族の意見を反映させている。	玄関に意見箱を設置。面会時等に意見や要望を貰うようにしている。食器の見直しについて意見があり、検討し直ちに対応し、利用者に喜ばれている。いただいた意見や要望は、朝礼やフロアミーティングで職員に伝え、業務日誌に記載し、全職員に共有されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回管理者と個別面談を行い、意見の吸い上げを行っている。定期の面談以外でも面談が行える体制を整えて早期に悩みの解決ができるようにしている。	修繕についての意見や提案が多く、花壇の柵が劣化した為、新しい柵を設置し、利用者が柵に掴まった時の危険を回避することができている。職員から資格取得や研修会への参加の要望があったときは、出来る限りの参加を促している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議等を定期的に行っており、現場からの情報を吸い上げている。職員の意見は貴重なものとしていつでも耳を傾けるようにし、働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正職員、パート職員を区別することなく職員の力量を把握して研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自治体主催の研修に積極的に参加することで交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのコミュニケーションをとりながら関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との連絡を密にとることで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に聞き取りを行いながら必要なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、できるお手伝いをしてもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係性を大切にしながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係性を継続できるよう努めている。	近隣住民、近くの保育園や小学校、ボランティア団体と交流している。家族や親族との面会は、コロナ禍で面会を中止していた時期もあったが、規制はあるが再開している。馴染みの人が面会に訪れた時は、家族の規制がなければ面会して貰うようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもいつでも相談に応じることができるとお知らせしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の訴えや行動、何気ない会話から思いを汲み取れるよう努めている。また、毎月のフロアミーティングにおいてケース検討を行っている。	散歩や入浴時の1対1の時に本音を聞きやすく、先ずは傾聴し、思いにすぐに答えられない場合は、出来るだけ早くに返答するようにしている。把握した思いや意向は、ケアプランに取り入れ、スタッフ間で周知し共有するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや家族からの情報を活かしながら行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の様子から現状の把握に努めている。本人の思いはどこにあるかを常に模索している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に話し合い、毎月のミーティングや3か月に一度のプラン見直しを踏まえて、介護計画を作成している。	役割りを持つことで、生き生きと生活できるように、残存機能を出来るだけ維持できるように介護計画作成をしている。変更時は、かりつけ医の意見やケアカンファレンスでの意見を反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に記入できている。また、生活記録や業務日誌にて情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に対して柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険課の要請により、一時保護の預かりの協力、コロナ禍以前はボランティアの受け入れや保育園児慰問の協力を得ていた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、職員で情報を共有して本人に合った病院に受診できている。また、家族の希望に添ってかかりつけ医を決めている。	協力医療機関とは、月2回の往診、緊急時は、速やかに報告して必要な医療を受けられるようになっている。協力医療機関以外は家族対応となっているが、必要時は職員も同行している。受診結果は、書面や電話で伝え、共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員も朝礼に参加することで情報が共有できている。利用者の状態変化を伝え、日常の健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	カンファレンス等で、病院関係者からの情報収集を行っている。病院の相談員との連絡を早めにとることにより、病状の把握が出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状の理解に努め、家族の意向を聞き取っている。かかりつけ医から病状の説明を家族に行ってもらい、その後の方針を決めている。	重度化や終末期には、家族に出来るだけ面会や宿泊もして貰っている。重度化や終末期に対応するために職員には、フロアミーティング時に研修を行っている。終末期対応後、職員を労い、しっかり看取れたことや、家族からの労いの言葉も伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について共有できるよう努めている。また、救急対応マニュアルを作成している。実践力を身に付けられるよう訓練を行っていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練や避難訓練を行い、いざという時のために訓練を欠かさないようにしたい。	訓練時に、消防署や地域の方に協力して貰っている。訓練後、消防署に避難経路に不要なものがないかを確認、安全に避難できるか検証して貰っている。職員は年に一度以上訓練に参加できるようシフト作りをしている。食料等を備蓄し、6か月くらいで見直ししている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した対応ができるよう努めているつもりだが、ドアやカーテンが開いていることがあり心配りが出来ているとは言えない。	利用者は人生の先輩であることを意識して、尊重やプライバシーを考え、利用者の望むことをしっかりと把握するようにしている。利用者同士で、尊重やプライバシーを損ねるようなときは、職員が間に入り声掛けをして話を仲介するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけなど工夫することで自己決定ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを見極めることに重きをおいているが、職員のペースで動いてしまっている時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時に希望に添えるようにしている。2カ月に一度、訪問理美容を利用しているが、希望を聞き髪型を決定している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人に合った食形態で食事を提供している。出来ることをお願いして下膳やテーブル拭きなどの片付けを手伝ってもらっている。	レクリエーションのメニューは利用者に要望を聞き、職員が作成している。食事はその人のペースでできるようにし、食べる力に合わせて、刻み食やペーストにしている。外食時は、利用者が食べたい物を選択して貰い、職員も同じものと一緒に食べ共通の話題が増えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録に残している。水分を取りにくい利用者については、好みの飲み物を提供するなどして補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや見守り、介助を徹底している。口腔内の不具合も把握できている。歯科往診や歯科衛生士による口腔ケアも必要に応じて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用してその人に合ったペースで声掛けや介助を行っている。	出来ることをご自身で出来るよう、その方に合った排泄支援を行っている。排泄感覚を見極め、動き出したタイミングでトイレの声掛けを行っている。失敗してしまった時は、トイレや居室に誘導して、手早く着替え等ができるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や水分摂取量の把握に努め、排便を促せるようなバナナやヨーグルト等のおやつを提供を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合った声掛けを行っている。拒否がある際は、タイミングを見たり職員を変えて声掛けを行っている。また、曜日や時間帯は出来るだけ希望に添えるようにしている。	入浴を嫌がる人には無理強いせず、時間をおいて別の職員が声掛けすることで入浴できることもある。入浴剤を入れ、温泉気分を味わってもらっている。入浴ができなかった方には、手浴、足浴、全身清拭を行い清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動量を増やして夜間に眠れるようにしている。その人のペースに合わせて就寝している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を個人ファイルに入れていつでも確認できるようにして薬の目的等、理解できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きだったことや仕事だったことを活かしてレクリエーションに組み込んでいるが、好きなことでも強要しないようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の神社まで散歩に行くなど短時間でも外に出られる時間を作っている。暖かい日は、玄関ポーチにて過ごすこともある。	気分転換を考え、暖かい日は出来るだけが外気浴や散歩を行っている。希望があれば買いものへ出かけ、事業所外の人と触れ合える良い機会になっている。行事で出かけるときは、出先のトイレやスロープ設置などを事前に調べ、着替え、水分等の準備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣いを預かっている。本人の必要なものや希望のものを購入している。時には買い物に行き、金銭のやり取りを行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じて支援している。携帯電話を所持している利用者もあり、自由に家族とやり取りをしている。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>開所以来掲げている「こちより空間の共有」を実践して利用者に不快感を与えないようにしている。</p>	<p>玄関前のベンチや玄関内の椅子、ホールのソファなど、一人ひとり好みの場所で過ごせるようにしている。予防接種、手洗いうがい、マスク着用、手指消毒を徹底し感染症予防を行っている。居室、ホールに温湿度計を設置して快適に暮らせるようにしている</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>玄関やホールに椅子やソファを置き、一休み出来るスペースを作っている。また、車椅子でも動きやすいようにテーブルの配置を工夫している。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。</p>	<p>家族の協力を得ながら、居室内に馴染みなものを置くことで気持ちが安らぎ生活出来ている。</p>	<p>その時のその人の身体状況に合わせて、ベッドなど家具の設置や移動を行っている。清掃は、職員が中心になって行い、衣替えは家族に協力して貰っている。避難時は、利用者が避難したのが分かるよう、名札を裏返すようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内の廊下が長く手摺が設置されているので、歩行訓練や筋力維持の運動にも活用している。トイレにもトイレの表記があり、迷わず使用することが出来ている。</p>		